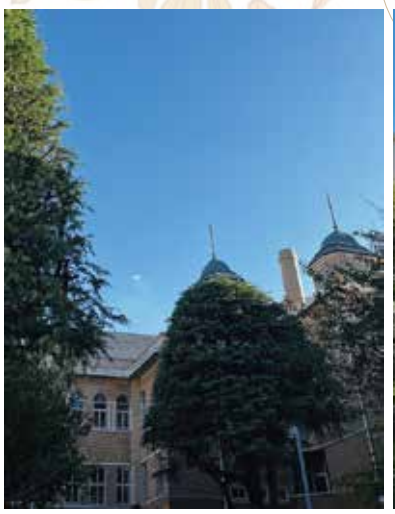
聖母ニュース

編集・発行
社会福祉法人聖母会聖母病院
〒161–8521
東京都 新宿区 中落合2–5–1
TEL03–3951–1111
https://www.seibokai.or.jp



聖母坂下からの
「生命への包容力」レリーフ

Seibo Autumn







◆理　　念◆

愛をもって病める人を癒されたキリストにならい、国籍、信仰、貧富を問わず、心の通う医療を提供して病める人々の身体的、精神的、社会的、霊的ニーズをみたす。

基　本　方　針

1. 生命を尊重し、最善の医療をおこないます。
2. 地域医療機関および福祉施設等と連携し、安心できる医療をおこないます。
3. 病院の理念に基づいて質の高い医療人を育成します。

患者の権利と責務

患者の皆さまには次の権利が保障されています

1. 平等かつ適切な医療を受けられます。
2. 人権が尊重されます。
3. 病気、治療について十分な説明が受けられます。
4. 医療内容を選択または拒否できます。
5. 個人情報やプライバシーが守られます。
6. セカンドオピニオンを求めることができます。

患者の皆さまへのお願い

1. 適切な医療を受けるために、健康(病状)に関する情報を正しくお知らせください。
2. 医療行為に関して納得したうえで意思を明らかにし、指示に従ってください。
3. お互いによりよい治療と療養生活を送るために、定められた規則を守ってください。

聖書のことば

愛は寛容であり、愛は情け深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。
(1コリント13:4-6)

Love is patient and kind; love is not jealous or boastful; it is not arrogant or rude. Love does not insist on its own way; it is not irritable or resentful; it does not rejoice at wrong, but rejoices in the right.
(1 Cor. 13:4-6)

備えあれば憂なし?

麻酔科部長　**松本 都**

夏の終わりに防災備蓄の見直しをしています。私は静岡出身なのですが、子供のころは地震が多発しており徒歩なのにヘルメット登校をしていました。地域では津波の避難訓練も行われていました。これは物心ついた時から防災を叩き込まれた静岡県民の性みたいなものだと思っています。

東京に出てきて早30年。年々備蓄したいものが増えています。懐中電灯、ラジオ、乾電池。コンパクトなナップサックから始まった備蓄が現在は登山用の大きなリュックサックに。在宅避難用のグッズも増えたり減ったり、私の迷走がうかがえます。通勤途中の被災に備えた災害時対応セットは、ただでさえ多い荷物を増やしました。日々、ため込みたくない家人と備蓄したい私の攻防戦が続いています。

非常食を実際に食べて確認したり、省エネ調理法を試してみたりもしています。家人に「災害時に快適に過ごそうとする気持ちが強すぎる」と言われています。旅行に行けば宿泊先の非常口、海に行くときは近くの高台、日常では子供の学校や習い事からの徒歩での帰宅路の確認。

ちょっとやりすぎなのかもしれません。しかし私には静岡の血が！　今までそれで全てを片づけてきました。これからもきっとそうして生きていくことでしょう。いつ訪れるかわからないのが自然災害。これを機にハザードマップの確認からいかがですか?

188号の内容

備えあれば憂いなし …… 1
産婦人科通信　第2回 …… 2
乳腺外科通信　第2回 …… 2
着任医師紹介 …… 2
聖母病院草創期の物語　第4回 …… 3
世界患者安全の日/聖母お元気倶楽部 … 3
外来診察表 …… 4

産婦人科通信

連載第2回

あるはずの生理がなくて楽かも…は要注意。子宮内膜がんのお話

部長　山内美和

毎月の生理は体調も崩れやすく、生理がないと「楽でいいわ」と思ってしまうこと、ありますよね。でも、もし3か月以上生理が来ていない場合は要注意です。

実は無月経の放置は、子宮内膜がんのリスクを高めてしまう原因となるからです。子宮内膜とは、子宮の中にできる生理の壁です。通常、女性の体は2つのホルモンによって子宮内膜が厚くなり剥がれて生理が起こります。生理がない人は、子宮内膜細胞を増殖させるホルモンのみが働き、子宮内膜細胞の増殖を抑えるホルモンの働きがない状態です。このため子宮内膜の細胞は過剰に増殖してどんどん厚くなっていきます（これが子宮内膜増殖症です）。



細胞が何度も何度もスピードを上げて分裂を繰り返していくと、どうしても途中で遺伝子のコピーミス（突然変異）が起きやすくなります。これが長時間続くと「がん細胞」が生まれてしまい子宮内膜がんへと進行してしまうのです。がんのリスクを下げる治療は不足しているホルモンの補充です。

発症年齢は、10代（非常に稀）20代（稀ですが長期の無月経、肥満などのリスクがある方に発症することがあります）と、40代未満の発症率は子宮内膜がん全体の5％程度ですが、「若いからがんにならない、大丈夫」ではありません。生理が3か月こなければ、勇気をだして婦人科を受診してくださいね。



乳腺外科通信

連載第2回

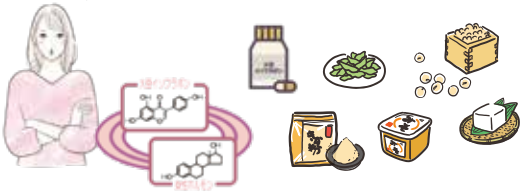
大豆およびイソフラボンと乳がんの関連について

医長　菊山みずほ

大豆に含まれるイソフラボンは女性ホルモン（エストロゲン）に似た働きをすることが知られており、更年期の不調を整えるといわれています。

サプリメントして販売されているエクオールはイソフラボンに含まれる成分が腸内細菌によって代謝された物質で、エストロゲンが減少した体内でエストロゲンに似た働きをすることで更年期の症状を和らげたり、骨密度の減少を抑えたりする効果が期待されています。また、抗エストロゲン作用があり、過剰なエストロゲンを抑えることで乳がんのリスクを下げる可能性があるといわれています。

しかし、乳がんの多くはエストロゲンの影響を受けることから、イソフラボンを摂取することで乳がんになりやすくなるのではという心配もよく聞かれます。『乳癌診療ガイドライン2026年版』では大豆やイソフラボンの摂取と乳がん発症について、次のように記載されています。



> 国際的な評価では、大豆および大豆製品は乳がん発症リスクとの因果関係は証拠不十分とされていますが、日本人を対象にした研究では、みそ汁の摂取量が多いほど乳がん発症のリスクが減少したことが示され、大豆およびイソフラボン摂取は乳がん発症の予防として可能性があると評価されています。

エクオールについて調べた研究は多くはなく、乳がん発症リスクに関連は認められなかったという報告もありますが、乳がんの患者さんに比べ乳がんではない患者さんでは尿中エクオールの濃度が高い人が多かったという報告があります。

ガイドラインによると、食事から得られる程度のイソフラボンによる乳がん発症リスクの増加は報告されていませんが、サプリメントとしての高用量のイソフラボン摂取の乳がん予防効果や安全性は証明されていませんので注意が必要です。

着任医師紹介

① 出身地　② 卒業大学、卒業年度　③ 専門　④ 聖母病院の印象　⑤ 今後の抱負　⑥ 患者さんへ一言



三浦（みうら） 理紗（りさ） 医師

① 東京都
② 東海大学 2021年度
③ 皮膚科
④ あたたかい雰囲気の病院だと感じました。
⑤ 様々な経験をして、皆様のお役に立てるように努めてまいります。
⑥ 患者さんに寄り添った医療を心がけます。

聖母病院
草創期の物語　第4回

初代病院長 戸塚文卿（1892-1939）の辞職

小児科　猪野雅孝



初代病院長
戸塚文卿 神父

国際聖母病院の創立に大きくかかわった戸塚文卿（ぶんけい）神父は、海軍の横須賀病院・呉病院・佐世保病院の病院長や海軍軍医総監を務めた戸塚環海を父として、1892年（明治25年）2月11日に横須賀で生まれました。

暁星中学校を卒業後、第一高等学校（現・東京大学教養学部）に入学し、その年に洗礼（代父岩下壮一氏、霊名ヴィンセンシオ・ア・パウロ）を受けています。東京帝国大学医学部を卒業後、外科学を専攻し、犬の膵臓移植手術に成功するなどの業績を上げました。1921年（大正10年）、29歳の時、文部省より北海道帝国大学助教授に任命されると同時にイギリス、フランス、ドイツに最新医学の研鑽を積むために2年間の留学を命じられました。パリのパスツール研究所で組織学の研究を始めたのも束の間、2か月後にはロンドンで哲学、翌年にはパリのカトリック大学で神学の研究に没頭し、1924年にパリで司祭に叙階されています。

『東京にカトリックの病院（神様の家）を建てて、そこで医者として、また、司祭として働くつもりです。僕は毎日、僕と一緒にそこで働いてくれる人を与えて下さいと神様に祈っています。』との言葉を残し、戸塚文卿神父は1925年（大正14年）に帰国しました。そして戸塚外科医院（品川）を継ぎ、貧しい人々のために「聖ヨハネ汎愛病院」を開院しました。その後1929年に結核療養施設「ナザレト・ハウス」（洗足荏原町）を開設し、2年後に千葉県海上郡（九十九里海岸）に移転し、「光の当たりにくい人々と共に歩む」理念のもと、「海上寮療養所」を設立しました。

1931年（昭和6年）12月に国際聖母病院の病院長に就任したのは39歳の時でした。1932年1月31日に父環海（77歳）、3月19日に母はな（60歳）が相次いで死去しました。父環海は国際聖母病院開設以来4人目、母はなは13人目の死亡患者でした。自宅での死亡でしたが、いずれも国際聖母病院内科の安齋眞篤医師が死亡診断書を作成しています。そして、戸塚病院長は同年7月に病院長を辞職しました。5月26日付の戸塚病院長の辞職願には「皆（医師団）は私を院長と思って私のところに相談に来るのですが、実際私には何の権限もないので責任をもって対応することができません」と書かれていました。それから2か月後に戸塚病院長は辞職し、6名の医師団のうち5名が病院を去っていくことになりました。患者が少なく、経済的に苦境に立たされていた病院側として医師団の要求に応じることができなかったことが直接の理由と考えられます。

その一方で、伝記「戸塚神父伝：神に聴診器をあてた人（小田部胤明著）」には「戸塚神父は快適な大病院の院長室にただ納まっているような人ではなかった。依然としてスラム街での愛の進出を考えていた」と記されています。また同書では、戸塚師にとって大きな慰めとなったことは「父母を聖母病院に案内して自分の事業を見て喜んでもらったこと」と「聖母病院で二人に洗礼を授けたこと」であったと語られています。

その後、戸塚神父は単に病気を癒すことだけでなく「カトリック病院」（神様の家）の名の通り、愛と祈りの病院を作ろうとしました。「聖ヨハネ汎愛病院」を発展させて、「キリストのように人を愛し、病める人、苦しむ人、もっとも弱い人に奉仕する」理念のもと、北多摩郡小金井町（現・小金井市）に「桜町病院」を設立しました。しかし、心臓の疾患でたびたび発作に見舞われ、桜町病院開院の3か月後、1939年（昭和14年）8月17日に47歳の若さで帰天されました。

9月17日は「世界患者安全の日」

9月17日は「世界患者安全の日」です。患者安全に向けた世界的な取り組みを促すため、2019年にWHO総会で制定されました。

2026年のテーマは「非感染性疾患（NCDs）に対する安全なケア」、スローガンは“生涯にわたる安全なケア！”です。がんや糖尿病など、長く付き合っていく病気を抱える方々が、生涯にわたって安全な医療を受けられることを目指しています。



当日は世界各地で、安全のテーマカラーである“オレンジ色”を用いた取り組みが行われました。聖母病院でも、職員がオレンジ色のマスクを着けて勤務し、患者さんにもご協力いただいて、安全への祈りを込めた折り鶴を作りました。これからも、患者さんに安全な医療をお届けできるよう取り組んでまいります。

『聖母お元気倶楽部』 開催のご報告と次回のご案内

介護予防講座「聖母お元気倶楽部」が8月27日開催されました。
地域から17名の皆さまが参加してくださいました。



今回のプログラム

❶ 当院理学療法士オリジナル「介護予防運動」と「新宿区ごっくん体操」

❷ 当院看護師による介護予防講座
テーマ：「知って安心！はじめての介護保険～元気を長持ちさせる仕組みと、いざという時の使い方～」でした。
介護保険の仕組みについては皆さまご家族のために利用された経験があったり、よくご存じの方も多かったです。

❸ 交流会では、介護保険のことだけに留まらず、生活の事、体の事等々、本当に活発にお話をされていました。

次回は11月26日木曜日13：30～15：30
当院看護師による介護予防講座を予定しています。
多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

聖母病院
看護部

外来診察表

◇お知らせ◇ 当院は原則予約制です。ご予約のない患者さまは、お待ちいただく時間が長くなる可能性があることをご承知ください。

（令和８年 10. 1～）

			月	火	水	木	金	土（第3週休診）
内　科	午前診療	①	濱松 永昌	宮本 大介	富澤 学之	宮本 大介	濱松 永昌	宮本 大介
		②	予 約 外	予 約 外	予 約 外	予 約 外	予 約 外	市瀬 裕一
		③	富澤 学之	市瀬 裕一	北濱真理子	井上理紗子		井上理紗子
		④	増田佳奈子	井上理紗子	総合診療科	高林英日己	佐々木順子	芹川直輝／稲垣裕介
		⑤	庫川 恵理	川﨑 麻紀	庫川 恵理	井上ゆか子	井田真規子（10:00～13:00）	庫川 恵理
		⑥	藤井 大輔	増田佳奈子	玉置 博之	藤井 大輔		
	午後診療	①	濱松 永昌	川﨑 麻紀	玉置 博之	予防接種外来	濱松 永昌	
		②	宮本 大介	北濱真理子	増田佳奈子		大河内遼太郎（神経内科）	
		③		砂金瑛実（神経内科）	北原 愛弓		宮本大介（13:30～）	
		④		高林英日己		総合診療科	総合診療科	
総合診療科（院内標榜）	午　前				南郷 栄秀			
	午　後					南郷 栄秀	田中 祥子	
内視鏡	午　前		鈴木辰典（内科）	高林英日己（内科） 安永浩基（内科）	高林英日己（内科） 濱松永昌（内科）	濱松永昌（内科） 宮野省三（外科）	飯岡愛子（外科）	井上幸紀（外科）
	午　後		第1.3.5 高林英日己（内科）	第2.4 交代制（JOHO東京新宿メディカルセンター）	高林英日己（内科）	濱松永昌（内科） 宮野省三（外科）	高林英日己（内科） 田中敏明（外科）	
外　科	午　前		井上 幸紀	井上 幸紀	松延修一郎	田中 敏明	井上 幸紀	田中 敏明
乳腺外科	午　前		加藤 昌弘	菊山みずほ	菊山みずほ	菊山みずほ		菊山みずほ
	午　後			神野浩光/岩瀬　哲		第1.3 菊山みずほ（リンパ浮腫）		
泌尿器科	午　後		勝井 政博			勝井 政博		
整形外科	午前	①	小川政明（股関節）	橋本健史（足の外科）	小川政明（股関節）	第1.3 村越　薫／第2.4.5 土岐尋江	三箇島吉統（膝関節）	交 代 制
		②	小林 亜里	小林 亜里	土岐 尋江	小林 亜里		
		③	土岐 尋江	藤井 武（脊椎外科）				
	午　後			宮本英明（手の外科） 14:00～15:30（予約のみ）				
産婦人科	午前	初　診	兼子 絢華	第1.3.5　戸田里実 第2.4　宮本優奈	山内 美和	増澤 利秀	宮本 優奈	宮越　敬
		再　診	山内　潤	山内　潤	増澤 利秀	山内　潤	宮越 敬（10:30～）	増澤 利秀
			山内 美和	宮越　敬		山内 美和	戸田 里実	戸田 里実（～12:30）
					戸田 里実	兼子 絢華		兼子 絢華
	午後診療				宮越 敬（胎児診断外来）	片岡史夫（腫瘍外来）		
小児科	①		江﨑奈緒子	岩丸 良子	江﨑奈緒子	大塚 素子	江﨑奈緒子	大塚 素子
	②		前田 由美	前田 由美	第1.3.5　前田由美 第2.4　山中聡子	前田 由美	高橋 美希	前田 由美
	③		山中 聡子			第3除く 岩丸良子（神経）		松井順子／（第1.5）非常勤
	④					第3 松井順子（神経）		
	乳幼児健診			江﨑奈緒子（予防接種）	第2.4 前田由美	高橋美希（予防接種）	大塚素子（予防接種）	
	1か月健診			大塚 素子	第1.3.5 猪野雅孝	猪野雅孝（BCG）	岩丸 良子	
			猪野 雅孝	大塚 素子	猪野 雅孝	前田 由美	岩丸 良子	
			前田 由美	岩丸 良子	山中 聡子	大塚 素子	高橋 美希	
			江﨑奈緒子			高橋 美希		
	専門外来		猪野雅孝（新生児フォローアップ）	前田由美（アレルギー）	前田由美（アレルギー）		江﨑奈緒子（アレルギー、SLIT）	
			第2月除く／島田衣里子（心臓）	大塚素子（夜尿症）		予約／岩丸良子	予約／大塚素子	
			予約／江﨑奈緒子（SLIT）	予約／岩丸良子	山中聡子（新生児フォローアップ）		岩丸良子（予防接種）	
							高橋美希（予防接種）	
精神科			滝上 紘之	櫻井 昭彦	滝上 紘之	滝上 紘之	滝上 紘之	滝上 紘之
耳鼻咽喉科	午　前		中川 秀樹 大石 直樹	中川 秀樹	不定期／中川秀樹	齋藤康一郎	中川 秀樹	中川 秀樹 交代制（慶應大・杏林大）
	専門外来		音声・嚥下外来	音声・言語外来		音声外来		
眼　科	午　前		伊藤 慈晃 太根 ゆさ	伊藤 慈晃	伊藤 慈晃 河井 明佳	伊藤 慈晃 落合 淳一	海田 千恵 長谷川二三代	第1.5 伊藤慈晃 第2 戸ヶ崎英理奈／第4 非常勤
	専門外来		特殊予約外来	特殊予約外来	手術	特殊予約外来		
皮膚科	午前	1　診	辻　麗生	辻　麗生	小林里実（辻 麗生）	三浦理紗（交代制） 辻　麗生（交代制）	三浦 理紗	辻　麗生
		2　診	三浦 理紗	三浦 理紗	矢作 美奈	西山有希子	西山有希子	三浦 理紗
		予約外来	川上 理子	小林 里実	川上 理子	特殊治療／小林里実	レーザー・一般／松浦功一	第1吉田 傑／第2.4近藤明里
	午後	専門外来	小児皮膚科・小児レーザ／第1.3.5川上理子　第2.4松浦功一 掌蹠膿庖症性骨関節炎／石原陽子（整形） 光線・学童／辻　麗生	乾癬・掌蹠膿庖症・小児レーザー／小林里実 ピーリング／三浦理紗　辻　麗生	第2.4 小児皮膚科・小児レーザ／川上理子 乾癬・掌蹠膿庖症／小林里実 光線・学童／矢作美奈	手術／小林里実 三浦理紗　辻　麗生	乾癬・掌蹠膿庖症／第2.4 小林里実 光線・学童／三浦理紗	

＊休診日：日曜、祝祭日、第3土曜日、クリスマス（12月25日）、年末年始（12月30日～1月3日）

予約センターについて

代表電話からはお繋ぎする事ができません。

全科診療予約については、予約センターにて受付致します。下記時間内に直通電話にてご連絡をお願い致します。

予約受付時間	平　日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～12:30（第3土曜日除く）
予約センター電話番号		03-6908-1717

※産婦人科・乳腺外科以外の科は、当日予約は受け付けておりません。
※検査の予約変更・キャンセルについて、医療上のご質問がある場合は各科外来へご連絡ください。
※診療状況によりご希望の日程で予約が取れない場合がありますが、予めご了承ください。

編集後記

木々の葉も少しずつ色づき始め、澄んだ空、爽やかな秋風、早まる夕暮れなど、身近な景色にも秋らしい彩りが増してきました。
今秋は天候不順も続き、記録的な大雨に見舞われるなど、各地で大きな自然災害もありました。これから晩秋にかけては、安定した気候を願いたいものです。
日々の暮らしの中で小さな秋を見つけ、季節の移ろいを感じながら、穏やかに過ごしていきたいですね。
朝晩は冷え込む日もありますので、体調に気をつけて、皆さま健やかにお過ごしください。　（T.O）